

陳情書

平成30年12月20日

松山市議会議長 清水宣郎 様

松山市文京町2番地1 東雲小学校内
東雲児童クラブ運営委員会
会長 竹原亮二 印

小学3年生を待機させないための 東雲第2児童クラブの場所の確保を求める陳情書について

貴、松山市議会・市民福祉委員会の「待機児童ゼロ作戦対策について」との提言にありますように、働く女性が増え、放課後児童クラブに対する需要と期待はますます高まっております。松山市でも、平成27年度からの子ども・子育て支援新制度による小学6年生までの対象学年拡大に対応するべく、子育て環境基盤整備が始まっておりますが、東雲児童クラブは施策に逆行するかのようには待機児童が増加しております。

東雲小学校移設当初、子育て支援課は1クラスの需要を予測しておりましたが、年々クラブ入会希望者が増加、平成31年度は、3年生ばかりか2年生でさえも待機が考えられる危機的状況に追い込まれております。わずか数年で、小学2年生さえ入会困難な状況が現実のものとなりつつあります。

運営委員会は、東雲小学校内に第2児童クラブの開設を要望する一方で近隣の7物件を検討しました。しかし、松山市から求められた児童福祉施設に準ずる施設としての耐震基準、防火構造、避難経路及び賃料上限8万5千円を満たす物件はありませんでした。古い戸建て住宅であればこの賃料でも可能性はありますが耐震基準を満たしておりません。その他のテナントは13万円～39万円、約2～5倍の賃料が必要です。運営委員会が近隣に新築するには4千万円程度の資金が必要ですが、運営委員は小学校長、民生児童委員、公民館役員、町内会役員、子ども会役員、PTA役員、児童の保護者等の全員がボランティアであり保証人をお願いすることは不可能です。

平成30年には保護者と子育て支援課の強い要請を受け、定員40名の広さのクラブに通年62名、夏季のみ東雲小学校の多目的室をお借りして18名、計80名の児童を受け入れました。職員が子どもをかき分けて進まねばならぬような過密な状態は、子どもに強いストレスを与えトラブルやケガの誘因となりました。結果、擦り傷から骨折等のケガの件数が増加、子育て支援課から指導を受け運営委員会としての責任を痛感しております。こうした状況を踏まえ、平成31年度は通年の定員を53名とさせていただきます。苦渋の判断をいたしました。

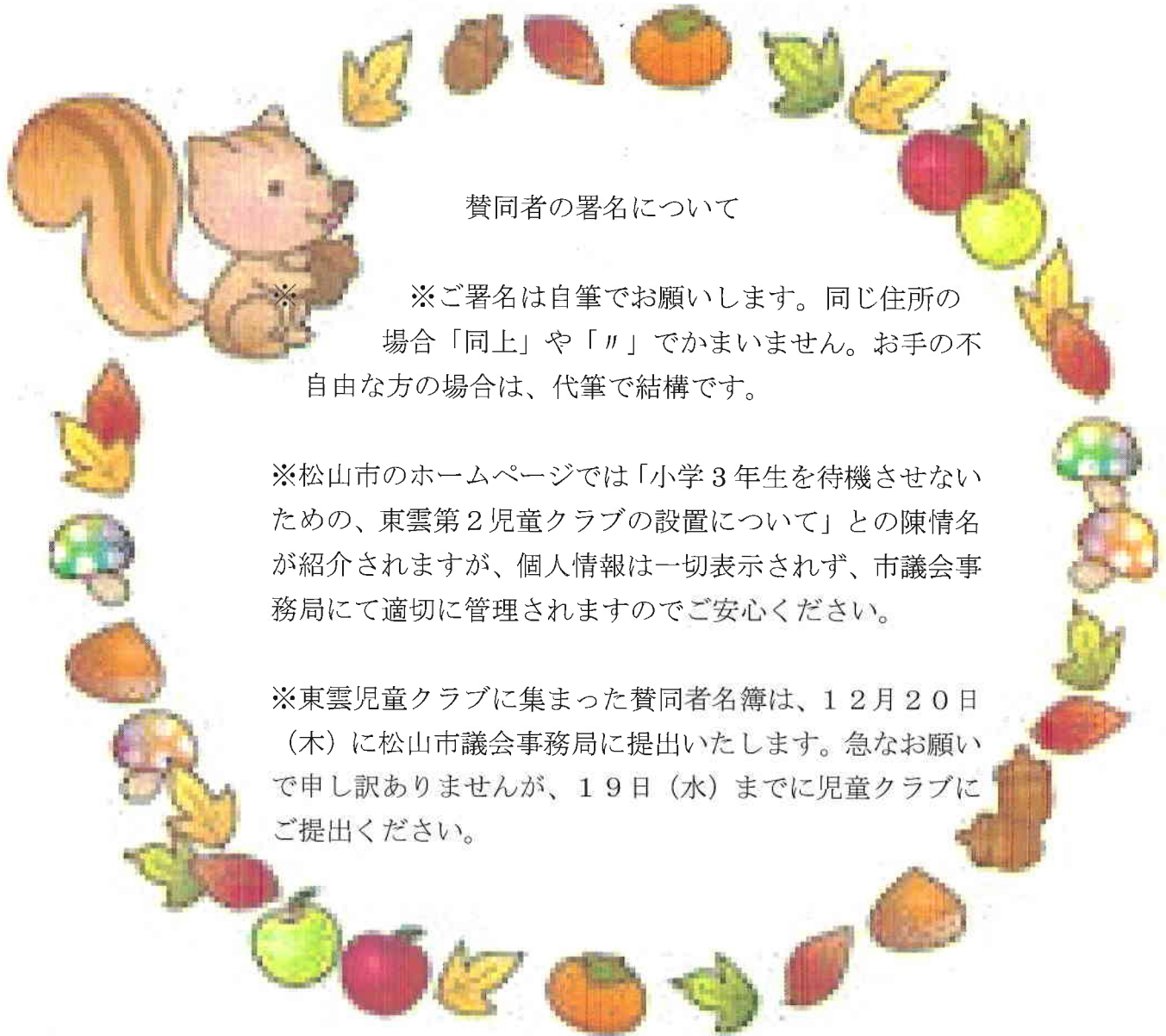
特に低学年の場合、まだ幼い子どもを自宅に1人で置かざるを得ない状況では、子どもの安全・安心が大いに脅威にさらされている昨今、親は安心して働くことができませんし、子どもに何か起こってからでは取り返しがつきません。

最悪の場合、仕事を辞めざるを得なくなる事もあります。家庭にとっても、企業にとっても、社会にとっても、女性が輝ける社会の実現を標榜している政府にとっても、非常に大きな痛手だと考えられます。子どもたちの健全な育成のために、放課後の受け皿である東雲第2児童クラブの早急な整備をお願いいたします。

記

1. 小学3年生を待機させないために、平成31年4月までに第2児童クラブの場所を確保してください。

以上



賛同者の署名について

※ご署名は自筆でお願いします。同じ住所の場合「同上」や「〃」でかまいません。お手の不自由な方の場合は、代筆で結構です。

※松山市のホームページでは「小学3年生を待機させないための、東雲第2児童クラブの設置について」との陳情名が紹介されますが、個人情報は一切表示されず、市議会事務局にて適切に管理されますのでご安心ください。

※東雲児童クラブに集まった賛同者名簿は、12月20日（木）に松山市議会事務局に提出いたします。急なお願いで申し訳ありませんが、19日（水）までに児童クラブにご提出ください。